

第3学年 国語科書写学習指導案

1 単元名

修学旅行の思い出を俳句にし、書写作品をつくろう

2 単元について

本単元は学習指導要領〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の書写に関する事項(2)「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。」に関する能力を育てることをねらいとしている。

生徒はこれまでに、1学年で楷書体、2学年で行書体を中心とした学習を通し、字形、配列、書体に調和した仮名の書き方、目的に応じて楷書又は行書を選んで書くことを学んできた。これまでの学習を生かし、自作の俳句を作品にすることで、文字の伝達性や表現性を考えながら目的に応じて書くことができるのではないかと考える。

また、本単元では国語の授業と関連付けて、「俳句の可能性」「俳句を味わう」を通して、季語や切れ字に注意しながら、言葉や表現に即して情景や心情を想像し、俳句の世界に親しませることで、「C 読むこと ア. 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。」の能力を養い、修学旅行での体験を俳句にし、語句の効果や適切な使い方を学ぶことで、「B 書くこと ア. 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ言葉の特徴やきまりに関する事項「(イ)慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。」の能力を育てていくこともねらいとしている。

学習指導要領では「書写の指導の改善」において、「書写の指導については文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つような内容や指導の在り方の改善を図るとともに、身の回りの文字に関心を持ち文字を効果的に書くように指導することを求めている。」と示されている。自身の体験を俳句にし、書写作品の合評会を行うことで、主体的に取り組みながら文字文化に親しむことができると考える。

3 研究主題、仮説との関連

研究主題 一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

【仮説1】課題意識のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題を持ち、自分の文字について振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

(1) 仮説1との関連

①具体的な課題を持つための工夫

既習のポイントを意識しながら、自分の作品と向き合えるように、中心、配置、筆脈、漢字と仮名の調和、余白のバランスの5点に絞った掲示物、ワークシートを使用することで、生徒が自分の作品と向き合い、具体的な課題を見つけることができると考える。

【仮説2】支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

(2) 仮説2との関連

①筆遣いに慣れるための支援の工夫

筆に親しむ機会が少ないため、用具の取り扱いが不安な生徒が多く、そのことが主体的に取り組めない一つの要因と考えられる。そのため、部分練習の際に水筆、水書用紙を活用して、日頃から筆に触れることで、より身近なものとなるようにする。また、水書は用具による汚れや片付けの手間が少ないのも魅力となるだろう。

②崩し方、字形をとらえるための支援の工夫

生徒は、作品にしたい意志はあるが、書きたい文字の字形や字の崩し方、バランスがわからないため、書写活動に意欲的に取り組めない場合が多い。本来、崩し方や字形は書道辞典などを活用して調べ、集字することが一般的である。しかし、時間的、生徒の実態的にも難しいのが現状である。そこで日常生活で身近なパソコン（ワード）で印刷した文字を、行書につなげるための崩し方、字形の参考とし、試書のよりどころとすることで、比較的簡単に見本を作ることができることを知り、主体的に活動に取り組めると考える。

【仮説3】評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の規準を明確にすれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、日常の書写学習に生かすことができるだろう。

(3) 仮説3との関連

①練習の成果が明確になるようなワークシートの工夫

試書と作品を見比べ、個々の練習の成果が明確になるように、一枚のワークシートにまとめることで、変化を生徒自らが見つけより文字感覚が豊かになると考える。

5 単元の目標

- 読み手や目的、意図に応じて、字形や書体、文字の配列等を工夫して俳句を制作し、効果的に文字を書くことができる。
- 読み手や目的、意図に応じて、多様な方法で取材し、文章の形態や構成を工夫して書くことができる。
- 有季定型の俳句を創作し、合評会をすることを通して、語句や言葉遣いを工夫させ、語感を磨き、語彙を豊かにする。
- 俳句を読む楽しさを知り、想像を働かせながら読み味わうことができる。

6 単元の指導計画（9時間扱い）

時	ね ら い	主 な 学 習 活 動
1 (国)	「俳句の可能性」を読み、俳句について興味・関心をもつ。	○通読し、筆者のものの見方や感じ方、表現のしかたなどを読み味わう。 ○筆者の考えを通して、俳句を作る際の心構えを学ぶ。
2 (国)	俳句の基礎知識を学ぶ。	○「俳句の可能性」にでてくる句をもとに、使用されている俳句のきまりや技法を知る。
3 (国)	「俳句を味わう」に登場する俳句を読み、大意を理解し、心情や情景をとらえる。	○俳句を読み、感じた情景や思いを、文章やイラストにする。 ○心に残った言葉、表現を抜き出す。
4 (国)	修学旅行の体験から、有季定型の俳句を創作する。	○修学旅行中のメモ、歳時記を用いて、心に浮かぶ思いを有季定型の形で詠む。
5 (書)	自作の俳句を作意が豊かに表現できるように漢字と仮名の調和、配列を考える。	○パソコンを用いて、自作の俳句の作意が豊かになる書体を決める。(楷書または行書) ○用紙に調和よく書けるように配置を考える。 ○用紙に配置を決め、手本を作る。(印刷したものを切り貼りする。)
6 (書)	水筆を使って、文字の特徴をつかみ、配列、余白を意識する。	○水筆を使用して、筆の感覚、文字の書き方を復習する。 ○配列、余白を意識した練習用紙を作る。
7 (書) (本時)	自作の俳句を、書体や配列を工夫して表現する。	○自作の手本をもとに、練習し、自己の作品を振り返る。 ○ワークシートに振り返りをし、配列や調和を意識しながら練習を重ねる。
8 (書)	台紙に作品を貼って仕上げ、短評をつける。	○前時の練習を生かした作品を仕上げる。 ○色、材質の異なる台紙の中から自身で選択し、作品を仕上げる。 ○印を押し、自分だけの作品を仕上げる。
9 (国・書)	作品の短評をもとに、作品を鑑賞しあう。	○グループごとでの合評会を行う。

7 本時の指導（7／9）

(1) 目標

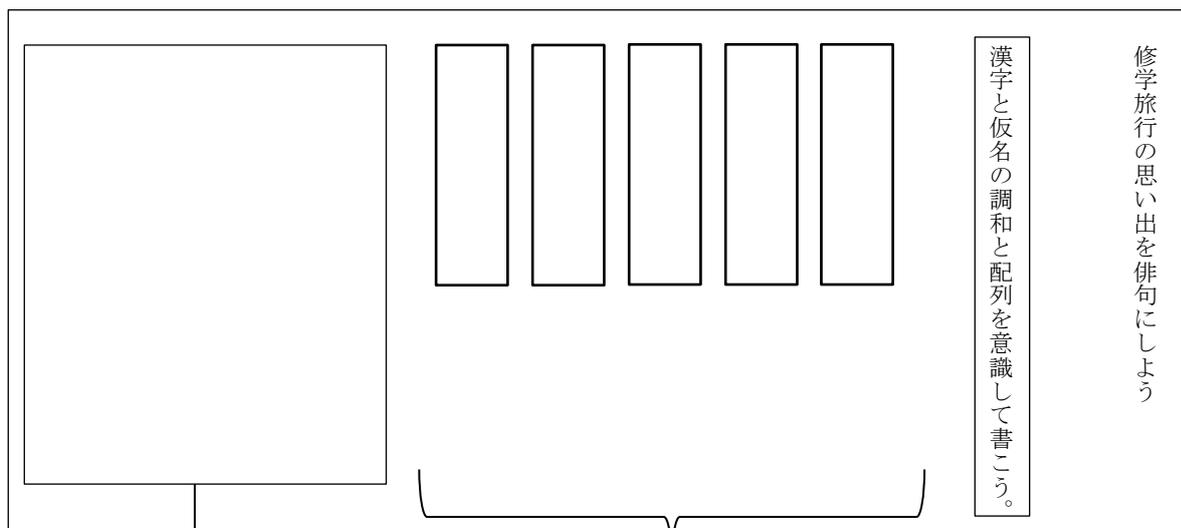
○学習目標：漢字と仮名の調和と配列を意識して書くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援・評価 (◇)	資料
試書	1 用紙に試書する。① (1枚) 2 試書をワークシートに貼る。 3 本時の目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自作の見本をよく見て書き、自分の木業を確認できるよう声をかける。 試書をワークシートに貼ることで、試書とその後の作品を比較し、成果を実感できるようにする。 	ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習目標：漢字と仮名の調和と配列を意識して書こう。 </div>			
目標把握	4 黒板に掲示した俳句を見て、学習目標のポイントを具体的におさえる。 1枚目：中心がずれている。 2枚目：字間がバラバラ。(区切りが意識されていない) 3枚目：漢字と仮名が調和していない。(漢字が小さく、仮名が大きい) 4枚目：筆脈がない。 5枚目：余白が極端に多い。(字が細かい) 5 ポイントを確認しながら、試書の振り返りをする。 《ポイント》 ①中心がそろっている。 ②俳句の区切りを意識した配置ができています。 ③筆脈を意識している。 ④漢字と仮名が調和している。 ⑤白と黒のバランスがとれている。	<ul style="list-style-type: none"> 黒板に掲示した俳句に注目し、5つのポイントを学習目標につなげる。 試書と黒板の俳句を一つ一つ見比べることで、課題を明確にできるようにする。 定規をあてて字の中心に注目できるようにする。 字間を意識するために5・7・5の区切りに着目するよう助言する。 文字の画数の違いに注目し、漢字と仮名のバランスに目がいくようにする。 点画の連続している部分と、そうでない部分が明確なものを提示することで、筆脈がわかるようにする。 紙に対する白と黒のバランスに着目し、余白の取り方を意識できるようにする。 	俳句作品
		<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに貼った試書の振り返りをするすることで、横に書かれたポイントを意識しながら、自分の作品と向き合えるようにする。 ポイントを中心、配置、筆脈、漢字と仮名の調和、余白のバランスの5点に絞って5段階評価で振り返り、具体的な課題を見つけるようにする。 試書作品をいくつか書画カメラで写し良い点を全体で確認しあう。 ◇自分の課題を見つけることができる。	テレビ 書画カメラ

練習	<p>6 課題を意識して練習する。 《予想される取り組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心がそろうように、見本に中心線を引いてみる。 ・字の大きさを意識するために、鉛筆で書きたい字の大きさの○を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で見つけた課題を意識し、練習するように助言する。 ・課題解決のために、中心線を引いた練習用紙を使用したり、一文字ずつ練習したりすることを助言する。 <p>◇字形や書体、文字の配列等を工夫して練習している。</p>	
まとめ	<p>7 一枚、本時の中で一番良く書けた作品を隣同士で見合う。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①と②の作品を比較し、向上した部分を明確にするために、ワークシートに本時の中で一番良く書けた作品をクリップでとめることを確認する ・お互いの良さを伝え合うように助言する。 	
振り返り	<p>8 ワークシートに本時の振り返りを記入し、提出する。</p> <p>9 次時の学習の予告。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試書と比べ、各自の課題の達成度を確かめるように伝える。その際、級友からの助言も参考にするように助言する。 ・比較、助言から、次回の課題を見つけられるようにする。 ・次回は作品の仕上げをし、台紙に貼り、より魅力的な作品にすることを伝え、意欲の継続を図る。 	

板書計画



生徒の試書を掲示

5つのポイントを踏まえた俳句